

① 概況

沖縄県は、アジア大陸の東の縁に北東から南西にわたって弧状に延びる日本列島の最南西端に位置しています。東西約1,000 km、南北約400 kmの広い海域に点在する大小160の島々のうち、有人島38島、100島あまりの無人島で構成され、本州の約3分の2に相当する広大な県域を有しています。

わが国唯一の海洋県・島しょ県で、主島の沖縄本島は九州と台湾をむすぶ線のほぼ中間に位置し、与那国島はわが国の最西端、波照間島は有人島の最南端に位置しています。与那国島は、その島影がみえるほど、台湾と近接しています。

沖縄県の人口は、令和2年10月1日現在（令和2年国勢調査）で146万7,480人、世帯数は61万3,294世帯です。本県の人口増加率は2.4%（対平成27年）で全国平均の-0.7%を大きく上回り、全国2位の高い増加率となっています。

わが国唯一の亜熱帯性海洋気候下にある沖縄県は、年間平均気温は22～23℃、真冬でも15～18℃で、最低気温が10℃を割ることはめったにない常夏の島です。

降水量は年平均約2,000 mm（那覇市）あり、湿度も高めですが、平均風速が5mあるため夏季は気温のわりに涼しく感じます。県土面積は、2,280.15km²（令和4年10月）で全国の約0.6%にあたり、47都道府県中44位に位置しています。

また、沖縄県には広大な米軍基地が存在し、その面積は186.97km²（令和3年3月末）で、県土面積の約8%、沖縄本島では面積の約15%を占め、地域計画又は都市計画の上でも大きな課題となっています。



② 沿革

沖縄における人類の歴史は、港川人（1万8000年前の人骨）や山下洞人（3万2000年前の人骨）などの発見によって、今から約3万2000年前にさかのぼるといわれています。

歴史に登場するのは12～13世紀の頃で、中国との交易が頻繁に行われ、各地に残るグスク跡（城跡）からは中国産の青磁器片や輸入品などが多数出土しています。当時、各地に按司と呼ばれる地方有力者がおり、互いに覇を競い合っていました。15世紀に按司の一人である尚巴志が統一を成し遂げ、琉球王国が誕生しました。尚巴志は首里に都を移し、その居城である首里城を構えました。

さらに、14～16世紀には航海術を駆使して日本や中国、朝鮮、東南アジア諸国との交易を繰り広げ、大航海時代と呼ばれる時代を築きます。これら海外との盛んな交易を通して、沖縄にはさまざまな外来文化がもたらされ、やがて、それらは時代を経て琉球独自の文化を生みだしました。沖縄の衣食住全般に中国や東南アジアの影響がみられるのはこのためです。

1879年、廃藩置県によって、琉球王国は沖縄県に生まれ変わります。去る太平洋戦争においては、日本で唯一の地上戦が行われ、県土は焦土と化し、20万人余が戦死しました。

終戦と同時に、沖縄県は米軍の施政権下に置かれ、1972年（昭和47年）5月15日に日本に施政権が返還されるまでの27年間、異民族支配が続きました。

日本復帰後は、3次の沖縄振興開発計画（昭和47年～平成13年）によって、産業・教育・社会資本等の整備が進められ、本土との格差は正に力が注がれてきました。

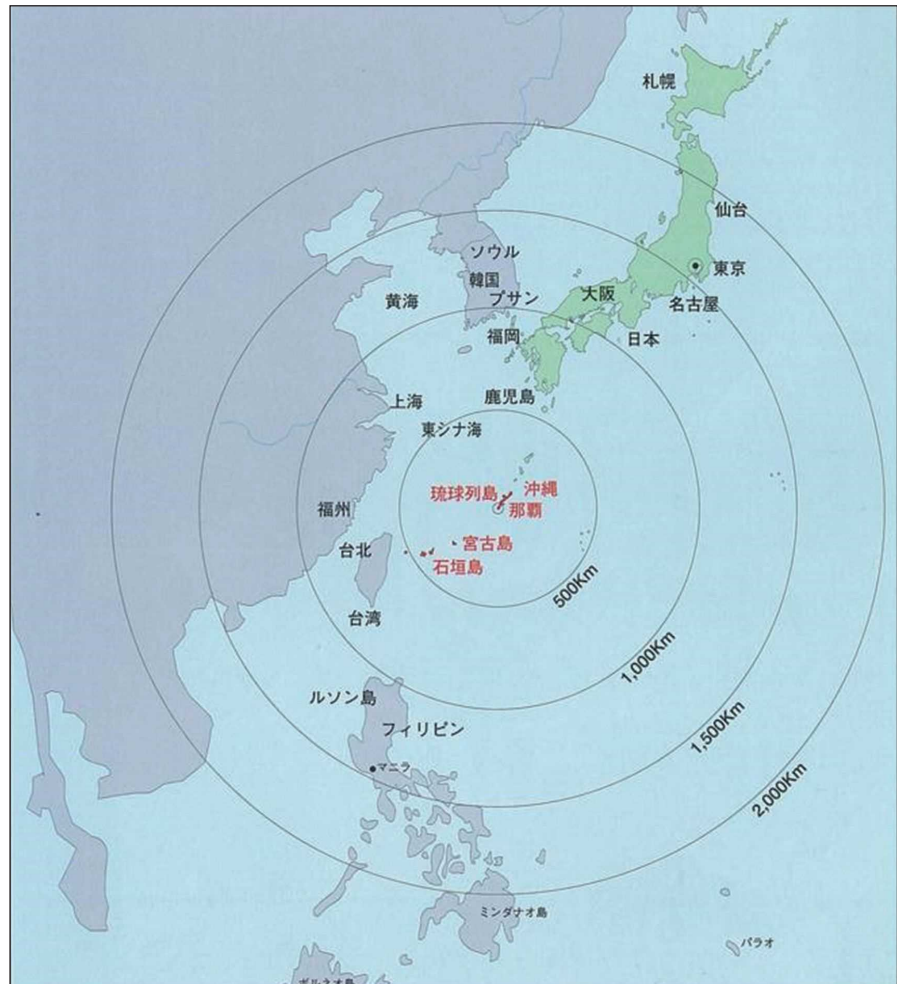
2002年（平成14年）には、新たな発展に向けて産業振興のための特別措置等を定めた沖縄振興特別措置法が制定され、同法に基づく沖縄振興計画が国により決定されました。

2012年（平成24年）には同法が改正され、沖縄県が沖縄振興計画を策定することとなり、同年5月に「沖縄21世紀ビジョン基本計画」の名で策定しました。同計画は策定10年目の2022年（令和4年）に見直しを行い、同年5月から「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」の名で新たなスタートを切っています。

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画は、「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に作る島」、「心豊かで安全・安心に暮らせる島」、「希望と活力にあふれる豊かな島」、「世界に開かれた交流と共生の島」、「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」という沖縄の将来像の実現と固有課題の解決を図り、本県の自立的発展と県民一人ひとりが豊かさを実感できる社会の実現を目標としています。

■ 沖縄県の位置

本県は、南西諸島の南半分に位置し、距離にして東西約 1,000km、南北約 400km、に及ぶ広大な海域に散在する 4 つの島しょ群（沖縄諸島、先島諸島、尖閣諸島、大東諸島）から構成されている。那覇から東京までは約 1,550km、中国・上海 820km、台湾・台北 620km の距離にある。



■ 沖縄県の位置図と行政区域

(那覇市を大阪府の位置に置き換えた場合)
 沖縄県の島の分布は、南北 400 km、東西 1,000 km の範囲に及んでいる。

